

いいことおしえてあげる～びせいぶつのひみつ～

著者：塚本久美子，吉田奈央子

編集責任者：近藤竜二

監修：日本微生物生態学会教育研究部会

発行：リバネス出版

ISBN 978-4-903168-12-8, A4判 36ページ，定価 1,575円（税込）

幼児から小学生向けの微生物を題材にした初めての絵本が出版されました。絵，文，解説はすべて微生物学研究者によって書かれていて，日本微生物生態学会教育研究部会が監修しています。子供達がこの絵本を読むことで，知らぬ間に微生物生態学を学んでいることになります。ページを捲る毎に様々な場面が登場し，本来なら肉眼では見えない微生物が，カラフルな色使いで画面一杯に描かれています。よく見ると，微生物の形は様々で，それらはすべて実在する微生物の形態をしています。ここに専門家のこだわりが見えました。子供が一番びっくりするのはウンチのところでしょう。自分の体から微生物の固まりが出てくるのですから，最も微生物を身近に感じる場面ではないでしょうか。この絵本を読み終わると，「とにかく微生物はどこにでもいるんだ！」という印象が強く残ります。

この絵本のもう一つの特徴は，末尾の保護者向け解説書です。非常に専門的な内容をコンパクトにまとめて書かれています。1. 微生物って～どんな生物？～，2. 微生物の分布～どこにいるの？～，3. 微生物の役割～地球のおそうじやさん～，4. 食べ物と微生物～食べ物を作る微生物～，5. ヒトと微生物～病気と健康と微生物～，6. 地球の生い立ちと微生物～大切な仲間～の6つのテーマに分かれ，それぞれの専門家が写真や絵を使って解説しています。保護者の方が解説書を読んだ後に，子供に読み聞かせをしていただくと，より子供との会話が盛り上がることは間違いありません。解説書は保護者向けですが，漢字にふりがなも振ってあるので，理科に関心を持つ小学生が読んでも専門書を読んでいる感じがして，微生物学への興味が湧いてくることでしょう。

文を書かれた東大海洋研の塚本久美子先生とは，約



20年前に分子系統樹の作製の方法を教えてもらったからの知り合いです。当時，微生物生態学や微生物系統分類学の分野では，研究と子育てを両立して活躍されている女性研究者が少なく，塚本先生には特別な存在感がありました。この絵本は，そんな塚本先生の「子供から大人の方々にまで楽しんで読んでいただける微生物絵本を作りたい」という長年の思いが実現した本だと聞きました。私も母になり気づいたのは，子供は好奇心の固まりで，興味を持つようなことを与えれば，子供はそれに関係した知識をぐんぐん吸収していきます。そのきっかけを与えなければ，好奇心の芽は育ちません。残念なことに，子供向けの絵本や図鑑には，動物，植物，昆虫，魚，鳥，両生類，は虫類をテーマにしたものはありますが微生物はありません。生命の起源は微生物であり，その後の地球上の生命の育みにも微生物は欠かすことのできない存在なのですから，是非子供の時から微生物を身近に感じて成長して欲しいと思います。この微生物絵本が，子供達への微生物教育のきっかけになることを期待します。

(独立行政法人製品評価技術基盤機構 川崎浩子)